累計利用者10,000名以上
継続率99%越えの実績から分かった

RPAの検討前に絶対に押さえたい推進と比較の完全ガイド

© OPEN, Inc. All rights reserved.

会社紹介

会社名	オープン株式会社（OPEN, Inc.）
持ち株会社	オープングループ株式会社【東証プライム：6572】
設立	２０１３年7月
代表者	代表取締役執行役員社長　石井 岳之
所在地	東京都港区西新橋3-3-1 KDX西新橋ビル 3階
事業内容	スマートロボット（RPA、AI）を活用した情報処理サービス、コンサルタント事業 スマートロボット（RPA、AI）を活用したアウトソーシング事業 スマートロボット（RPA、AI）を活用したデジタルマーケティング、オンライン広告事業

© OPEN, Inc. All rights reserved.

INDEX

1. RPAとは
2. RPAが求められる理由
3. RPAができること
4. 検討をはじめるにあたって確認したいこと
5. 確認しておきたい差が出るポイント
6. APPENDIX

© OPEN, Inc. All rights reserved.

1. RPAとは

© OPEN, Inc. All rights reserved.

RPAとは何なのか

RPAは、日々 PCで行われている一連の作業を記憶し、
自動化してくれるソフトウェアのロボットです。
基本プログラミングの知識を必要とせず、現場の方でも自身の業務を自動化できるのが特長です。

RPAが得意なことは

RPAは、様々な業務フローの自動化に
柔軟に対応します。

salesforce　kintone　freee　楽楽精算　弥生　Money Forward　box　勘定奉行　slack

（ごく一部を記載）

- データの検索・抽出
- アプリ操作
- ファイルの作成
- データの加工集計
- 社内外システム連携
- データの確認・判断
- システム入力・登録
- Webクローリング

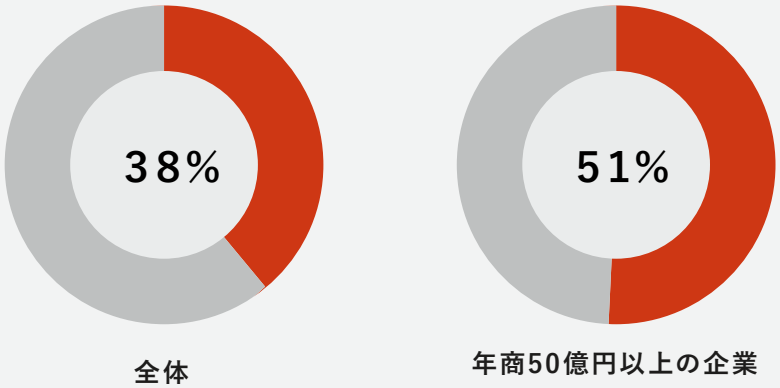
© OPEN, Inc. All rights reserved.

2. RPAが求められる理由

© OPEN, Inc. All rights reserved.

RPAのいま

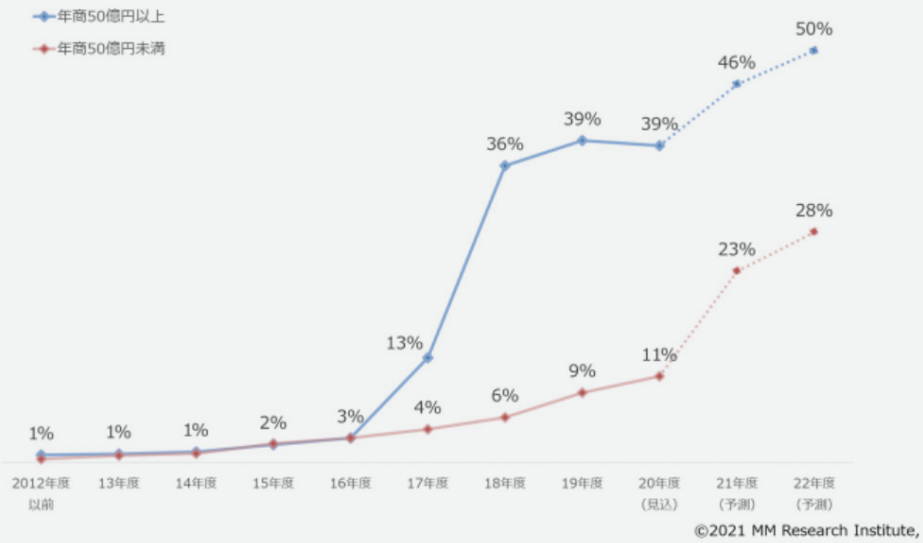
RPAの社数ベース導入率



出典：株式会社MM総研「RPA国内利用動向調査2020」

RPAの導入率は全体で38%を超え、年商50億以上企業では51%と約半数の企業が導入しています。

RPA導入率の推移予測

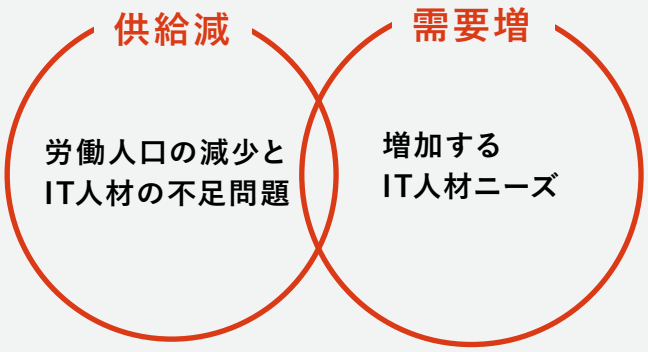


コロナ禍の影響によりリモート対応などの他ITツールへの投資に予算が割かれ、指数関数的な延びは一時停滞。
今後はコロナ禍により急速に進んだデジタル化とRPAの相乗的な効果により特にSMB層を中心にRPAが急速に普及するとみられています。

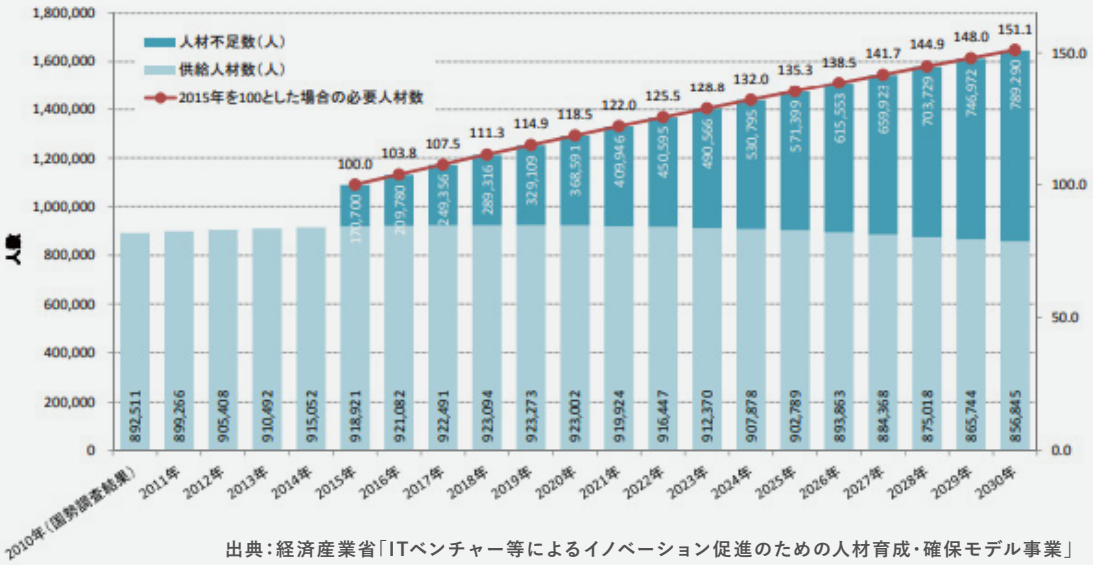
© OPEN, Inc. All rights reserved.

なぜ今、RPAが求められているのか

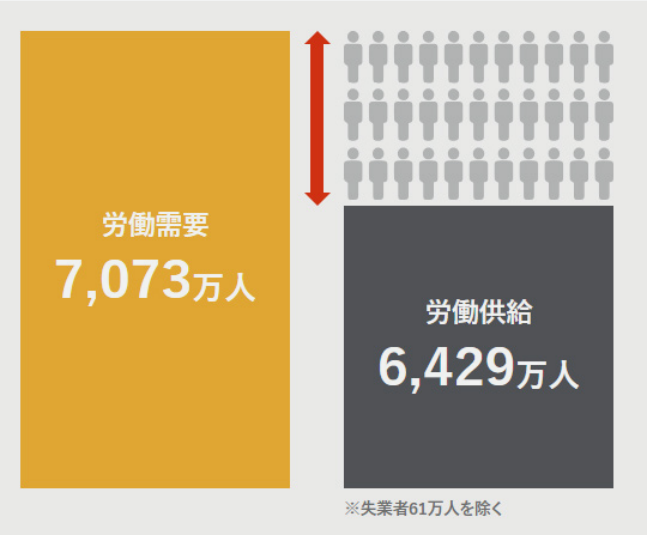
Point.1　労働人口の需給バランスの崩壊



IT人材は**2030年までに約80万人不足**すると予測されており、**全体では644万人の人手不足**が発生すると考えられている。
この解決策として経済産業省は**労働生産性の向上**をあげている。



出典：経済産業省「ITベンチャー等によるイノベーション促進のための人材育成・確保モデル事業」



出典：パーソル総合研究所「労働市場の未来推測」

© OPEN, Inc. All rights reserved.

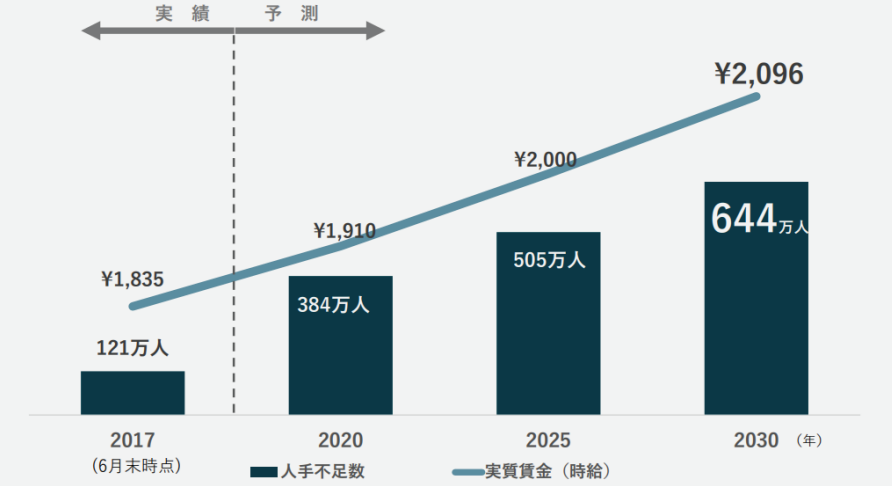
なぜ今、RPAが求められているのか

Point.2 雇用に関わる社会的変化

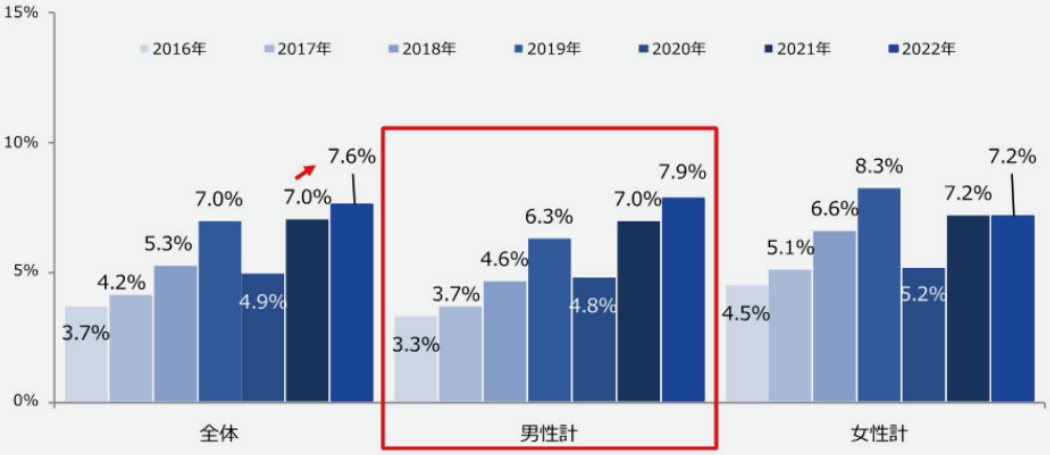
働き方改革
採用競争/コスト
人件費の高騰

人材不足と連動して**採用競争の激化**と**実質賃金の値上がり**が予測されており、働き方改革が進む中で**転職率もコロナ禍を過ぎて再び増加**、人材不足を人の補充で解決しようとすると予想以上にコストがかかり、組織が不安定になるとされています。

人手不足数、実質賃金の2030年までの推移

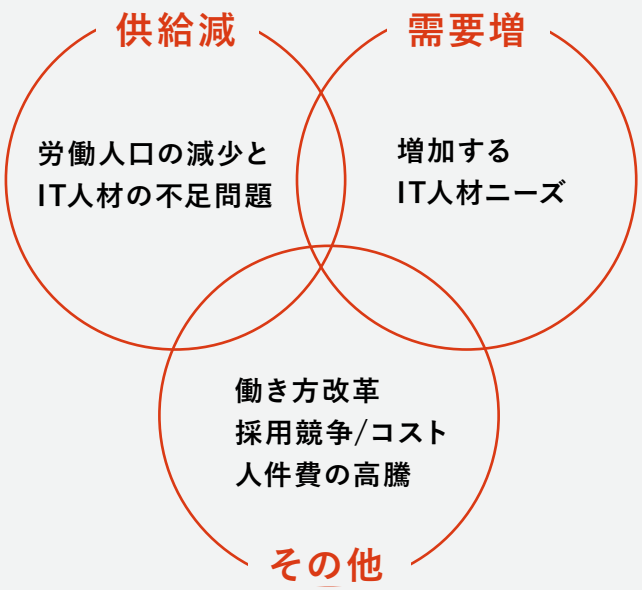


転職率の推移



© OPEN, Inc. All rights reserved.

なぜ今、RPAが求められているのか



こんな課題はありませんか？

① 更に業績を延ばして行きたいが労働生産性や人材不足で**成長が鈍化している。**

② せっかく業務を覚えてもらっても様々な理由で**退職してしまう。**

③ 生産性向上が必須だと分かってはいるが、テクノロジーで解決しようにも**ITに強い人材が少なく、余力が無い。**

④ 生産性を高める仕事を積極的に任せたいし、働き手も成長を望んでいると思うが、**面倒な定型作業は依然として残ってしまっている。**

だから今、ITに強くない人でも操作でき、生産性の低いルール化された作業を人よりも圧倒的に早く、ヒューマンエラーも無く、24時間黙々と働いて、更に退職もしない、**RPAという労働力のニーズが急成長を続けている**んです。

© OPEN, Inc. All rights reserved.

3. RPAができること

© OPEN, Inc. All rights reserved.

RPAができること

RPAはあらゆるシステムやアプリケーションなどと連携し、様々な業務の流れを学習、再現を行うため、人がルールにしたがってPC上で行っている業務であればおおよそが自動化可能です。

得意なことの例

- データの検索・抽出
- アプリ操作
- ファイルの作成
- データの加工集計
- 社内外システム連携
- データの確認・判断
- システム入力・登録
- Webクローリング

苦手なことの例

①臨機応変なルール化できない業務

②ロボットを拒否する仕様

③二段階/二要素認証

など

※可能な場合もあるので一度RPAベンダーへお電話でもご相談下さい。

© OPEN, Inc. All rights reserved.

広がる活用の場

製造　現場主導

株式会社ファンケル

“余白”を生み出し、新たな発想を。
年間およそ6,700時間相当の人的リソースを創出。

小売り　現場主導

株式会社マツキヨココカラ＆カンパニー

約500種類の対象業務を自動化、
徹底して現場担当者が扱う体制が普及の鍵に。

物流　現場主導

鴻池運輸株式会社

AI-OCRと併用して、1日2時間を要した在庫管理
関連の業務が、ほぼ完全に自動化。

© OPEN, Inc. All rights reserved.

※事例詳細インタビューはオープン株式会社までお問合せ下さい。

広がる活用の場

建築　現場主導

株式会社マエダハウジング

新卒入社した社員がほぼ1人で担当、
既に年間900時間相当の人的リソースを創出。

情報・通信　情シス主導

株式会社日立システムズ

社内50以上の部門で200以上のロボットが稼働。IT本部が主導してロボット管理、ガイドライン策定を進める。

金融　現場主導

GMOクリック証券株式会社

証券業務、財務、人事総務、情報システム、コンプライアンス、経営企画など幅広い業務にRPAを活用。

© OPEN, Inc. All rights reserved.

※事例詳細インタビューはオープン株式会社までお問合せ下さい。

4. 検討をはじめるにあたって確認したいこと

© OPEN, Inc. All rights reserved.

導入までの流れ

全体の流れ(一例)

ユーザー企業

サポート企業

自動化業務の洗い出し

同業種の自動化事例の提示

対象業務の優先順位付け、トライアルの進行やスケジュール、サポート等の打合せ

無料トライアルで操作感の確認とロボ作成

進捗に応じた伴走サポート、疎通検証等

導入要件を満たすかの検証

不足情報の提供や効果検証の支援

導入判断
導入の場合は、運用保守、オンボーディングの打合せ

複数製品の比較ポイントの整理

比較中製品の比較ポイントの確認(2~3社までがおすすめ)

先行事例から知る推進の必勝パターン

利用者10,000名以上、継続率99%超えの実績から導入検討の際に成果が出るまでのスピード感がグンと上がる推進パターンをご紹介します。

■推進体制

決裁者や影響力の高い人の支援を得る。

旗振り役となる担当者を1名指名する。

周囲の協力を得ながらできれば2~3名のチームを作る。

© OPEN, Inc. All rights reserved.

先行事例から知る推進の必勝パターン

■推進体制　（現場主導 or 情シス主導）

推奨　現場主導型の推進

現在この現場主導型が非常に増え始めています。
現場の社員が日常業務と兼務するかたちでRPAの社内推進を担当します。まずは自身の業務か近しい範囲の業務を自動化するようにしましょう。ロボ作成の時間などRPAに関わる業務を営業時間内で確り確保できる体制を作り、可能であればKPIなどに反映することで評価にも加えると効果的です。決裁者がトップダウンでRPAの取り組みを進めていることを他社員にも周知を行い、上長と周辺社員の協力も得られるとRPA化が加速する傾向があります。
注意点としてはRPAの利用範囲の拡大にあたっては部署を跨ぐ必要がうまれ、現場社員のみでは荷が重いことがあります。部署を跨いだプロジェクトチームを作るなどがおすすめです。

情シス・DX推進室主導型の推進

情シス主導で進める場合、RPAの使い方について飲み込みが早い場合が多く、初動のロボット作成がスムーズに進む場合が多いです。
拡大にあたっての管理や運用についてもスムーズに行える場合が多いので、もし情シス主導型の余裕があればおすすめです。
注意点としては現場業務の自動化に当たって現場社員の協力が得られる体制を作れそうかがボトルネックになる場合があるので突破法については一度サポート企業へ相談してみましょう。

© OPEN, Inc. All rights reserved.

先行事例から知る推進の必勝パターン

■推進体制　（開発内製型 or 外注型 or ハイブリッド型）

開発内製型

自社でロボ作成を進めるパターンです。無料トライアルではラーニングコンテンツや営業担当からのサポートも充実しているため、日常的にPCを触って業務を行っている方であれば問題なく推進できる場合が多いですが初動の学習や業務の時間を割きづらかったりなどによりどうしても初速が遅い場合もあります。

外注型

ベンダーやサポート企業にロボ作成をお任せするパターンです。
スピード感を持ってロボを完成させることができ、外注費用はかかりますがRPA導入の効果が実感できるまでが早いです。RPA化する業務の範囲が限られており、外注費用予算に余裕がある場合はおすすめです。

推奨　ハイブリッド型

内製化をベンダーやサポート企業の技術支援を得ながらスピード感をもって進めるパターンです。
始めのロボット作成などは一緒に行いながらロボ作成の学習を進めていきます。初期コストは外注型に比べて抑えることができ、社内にノウハウも溜まるため拡大推進も行いやすくなります。
初動のスピード感も得られるため効果の実感も早いです。

© OPEN, Inc. All rights reserved.

5. 確認しておきたい差が出る比較ポイント

© OPEN, Inc. All rights reserved.

基本となる比較4ポイント

1 操作性

プログラミング言語の知識が無くてもロボ作成が行えるのは当たり前になってきています。検討時はアイコンが大きいなど見た目の簡易性が重視されがちですが、長く操作すると慣れてくることを前提にUI<UXの順で重視すると失敗しづらくなります。

2 機能性

「どのRPAでもやれることは同じ」は間違いです。ロボを作れるか・安定して動くか・エラーチェックが簡単かは確りと確認しましょう。無料でトライアルをできる事は必須で自社のシステムが本当にその製品で操作が可能か、要素認識は可能かは確認しましょう。

3 サポート体制

特に使い勝手を掴めるまでのオンボーディング期間(4ヶ月間)についてサポート体制は非常に重要です。待ちのヘルプデスクだけではなく提案ベースの伴走支援体制があるか、即日回答の問合せ窓口があるかは確認しましょう。拠点が近くにあると有事の時に安心です。

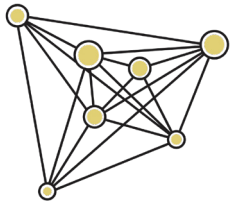
4 トータルコスト

最小プランの単価ではなく、実行・開発ライセンスやその他重要機能、基本サポートを踏まえた金額で確認しましょう。中長期的にライセンス数を増やした場合のコストまで計算できると安心です。料金体系に特長が出やすい製品なので詳しく聞いて比較するのが重要です。

© OPEN, Inc. All rights reserved.

【最新】差が出る必ず押さえたい機能

フローティングライセンス



従来

1ライセンスにつきインストールを行った端末一台のみで利用可能端末を増やす場合はライセンスを新しく購入する必要がありました。

1ライセンスで何台の端末でも利用可能に。同時実行数で管理を行うように。複数端末を跨いだロボットや複数の担当者がいる場合にトータルコストで差が出ます。
その他多拠点利用やリモートワークの社員が居る場合でもライセンスを増やす必要がないので2台以上で利用する場合は必須。

バックグラウンド実行

従来

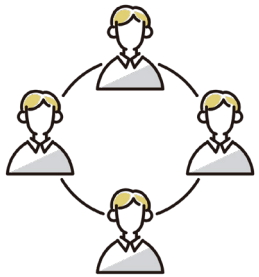
ロボットが動いている時は端末画面が占有され、人はその端末を使えない状態に。ロボットが増えればそれだけ端末を増やす必要がありました。

ロボットがバックグラウンドでも実行が可能に。同じ端末で人とロボットが一緒に働けるようになります。
普段使っている端末で自動化が可能なためロボット作成も比較的容易になり、端末数を全体で抑えることでも可能なので管理コストを抑えることも可能です。

© OPEN, Inc. All rights reserved.

【最新】差が出る必ず押さえたい機能

統合管理機能



従来

デスクトップ型ではそれぞれの端末が独立して利用するため、本来RPA化非推奨の業務が勝手に自動化されているリスクがありました。(例：入金作業など)

自動化を行っているロボットやユーザー権限を統合管理が可能に。ロボットはシェアされた状態になり、権限さえあれば誰でも実行がどの端末からでも可能になりました。複数部署での利用やガバナンスを効かせる必要がある場合は必須の機能になってきています。

コネクター機能

従来

ロボット作成を行う際は毎回自分で作りこむ必要があり、開発が思うように進まなかったりや挫折の原因にもなっていました。

他社でもよく利用がされているITツールを中心にロボット作成をスムーズに進められるコネクター機能が利用可能に。操作対象のツールが見つかればロボ作成をより簡易的に行う事が可能になります。
設計図のようなかたちで配布を行うこともあります。

© OPEN, Inc. All rights reserved.

6. APPENDIX

© OPEN, Inc. All rights reserved.

実際に興味が湧いてきたら

無料相談

お気軽にお問合せください。

オープン株式会社は様々な利用シーンに
対応可能な幅広いプランをご提案可能です。
豊富な事例と高い継続率をもとに情報収集
段階から導入後の効果実感までトータルで
サポートさせて頂いております。

Webサイトからお手軽にご連絡いただけます

▶ こちらのURLから直接アクセスいただけます。
https://rpa-technologies.com/inquiry/contact/

© OPEN, Inc. All rights reserved.